

鳥羽市全員協議会会議録

令和2年3月27日

○出席議員（13名）

| | | | |
|-----|------|-----|------|
| 1番 | 南川則之 | 2番 | 濱口正久 |
| 3番 | 瀬崎伸一 | 4番 | 片岡直博 |
| 5番 | 奥村敦 | 6番 | 河村孝 |
| 7番 | 山本哲也 | 9番 | 木下順一 |
| 10番 | 戸上健 | 11番 | 浜口一利 |
| 12番 | 坂倉広子 | 13番 | 坂倉紀男 |
| 14番 | 世古安秀 | | |

○欠席議員（1名）

8番 中世古 泉

○出席説明者

・山下企画財政課長、高浪副参事、田畑企画経営室副室長、永野企画経営室副室長

○職務のために出席した事務局職員

事務局長 清水敏也

次長兼
議事総務係長 木田 崇

(午後 4時14分 再開)

○木下順一議長 本会議に引き続き、お疲れさまです。

ただいまから全員協議会を再開します。

本日の案件につきましては、お手元に配付してあります事項書のとおりでございます。

それでは、議事に入ります。

協議事項1、執行部からの報告事項についてであります。

①第6次鳥羽市総合計画についてであります。

それでは、担当職員の説明を求めます。

高浪副参事。

○高浪副参事 企画財政課、高浪です。よろしくお願いいたします。

本日ご説明いたします内容は2種類ございます。一つ目は第6次鳥羽市総合計画策定のための市民の皆様からいただきましたご意見等のご報告と、二つ目は地方創生を推進するための第2期のまち・ひと・しごと創生総合戦略の案でございます。

それでは、一つ目の第6次鳥羽市総合計画策定のための市民の皆様からいただきましたご意見等について、資料に沿ってご報告をいたします。

今年度は四つの方法によって市民の皆様からご意見をいただいております。一つ目は例年実施しております市民意識調査でございます。市民の方の中からアトランダムに2,000人を抽出いたしまして、郵送によるアンケートを実施しました。

二つ目は事業所ヒアリングでございます。鳥羽商工会議所、鳥羽市観光協会からご推薦いただきました事業所へのヒアリングを行っております。こちらについては、現在予定しております事業所へのヒアリングが全て終了してございませんので、本日のご報告は途中経過となりますがよろしくお願いいたします。

三つ目は市民会議の開催でございます。市民意識調査の中で市民会議を行う旨をお示ししまして、ご協力いただける市民の方に意思表示をいただきまして、お集りいただきました。ワークショップ形式で意見交換をした結果をまとめてございます。

四つ目は市民インタビューでございます。今年の成人式と市が主催する講演会に出向きまして、参加されている方に対して四つの質問をインタビュー、アンケート形式で実施しております。その結果でございます。

資料については、四つの手法ごとにまとめてございます。少し資料が多くなっておりますので、一つずつ主な部分についてご報告をしたいと思います。

まず、資料1をご覧ください。データでお送りしているかと思えます。企画財政課1と書いた資料1、第6次鳥羽市総合計画策定に関する市民意識調査報告書(案)でございます。よろしいでしょうか。

1ページをご覧ください。

調査の概要でございますが、市民意識調査の概要は、鳥羽市在住の18歳以上の市民の方から無作為に2,000人を抽出し、郵送によるアンケートを送付いたしました。有効回収数は423件で回答率は

21.15%でございました。

2ページをご覧ください。

年齢構成でございます。回答率は60代が25.3%を占めており、次いで70代24.8%となっております。10代から50代まで合計いたしますと36.3%。60歳以上の回答率が60%となっております。年齢の高い方からの回答が多いというのは例年のとおりでございますけれども、今回若い方のお声をお聞きするため、質問項目は同じではございませんが、今年の成人式において二十歳の方々の声をお聞きしております。これについては、後ほど四つ目の報告でご説明をしたいと思います。

少し飛びますが、7ページをご覧ください。

7ページは地域への愛着度をお聞きしております。円グラフをご覧ください。地域への愛着を「持っている」50.4%、「どちらかといえば持っている」36.6%、合計で87%の方が鳥羽市への愛着を持っていると回答をしております。前回の調査では、この結果は81.3%でございましたので、地域への愛着度は増えている結果となりました。

9ページをご覧ください。

9ページは住みやすさでございます。円グラフをご覧ください。「住みやすい」22.5%、「まあ住みやすい」44.7%、合計で67.2%の方が住みやすいと回答をしています。前回の結果では66.1%でございましたので、住みやすいと回答した方が少し増えている結果となりました。

11ページをご覧ください。

11ページは定住意向とその要因でございます。「ずっと住んでいたい」54.4%、「しばらくは住むつもり」25.1%、合計で79.5%の方が今後も定住意向であると回答をしています。前回の調査ではこの結果が81.5%でございましたので、2%減少をしております。

その下の棒グラフでございます。定住意向の理由でございますけれども、一番多いのが「緑や自然環境が豊かである」22.4%、次いで「犯罪が少なく風紀がよい」「公害が少ない」「近所づきあいなどの人間関係がよい」という回答が上位を占めております。

12ページをご覧ください。

12ページは逆に、「市外に移りたい」「近いうちに転出する」と回答した方の理由でございます。一番多いのが「買い物が不便である」25%、次いで「交通の便が悪い」「医療や福祉環境が充実していない」「まちに魅力や活気がない」という回答が上位を占めております。

飛びますけれども、24ページをご覧ください。

24ページは、施策の重要度でございます。第5次鳥羽市総合計画における施策は40ございます。その40項目について、重要度、満足度について質問をした結果でございます。

まず、重要度でございます。重要度が高いものから順番に、25番目の「安全で安定した水を提供する」、5段階で4.69ポイントでございます。28番目の「安心できる社会保障制度を運営する」、34番目の「消防・救急体制を充実する」、27番目の「いざという時の受診体制を整える」、32番目の「災害から市民生活をまもる」といったことが重要度が高いものとなっております。

続いて、26ページをご覧ください。

26ページは満足度でございます。40の施策の中で満足度を聞いております。満足度については低い施策についてご紹介をしたいと思います。7番目の「若者の地元での就職や起業を支える」満足度は2.01ポイント、8番目の「将来性のある企業活動・ビジネスを育てる」2.10ポイント、14番目の「地域産業の経営安定化を図る」2.72ポイント。満足度が低い施策、このようになっております。

31ページをご覧ください。

31ページでは、力を入れてほしいまちづくり分野を聞いております。この質問項目は、今回初めて調査に入れた項目になります。力を入れてほしいまちづくり分野として、一つ目が「保健医療」15%、「雇用促進」が14.6%、「福祉」「安全・安心」以下「結婚・子育て」「生活環境」「産業振興」などが挙げられます。

32ページをご覧ください。

32ページから40ページまでの質問項目は、地域共生社会を実現するために今回から入れた項目になります。

36ページをご覧ください。

36ページでは、居住地域における課題を聞いております。市民の方が住んでいる居住地域における課題でございます。一つ目が「高齢者の生活支援」という課題があると答えた方が35.7%、次いで「災害への備え」26%、「地域住民の社会参加や生きがいつくり」17.7%、「子育て世帯への生活支援」9.7%となっています。

38ページをご覧ください。

日常における近所との支え合いでできると考える活動、自分でできると考える活動を聞いております。1番目が「日常的な見守り、安否確認」が24%、「災害時の避難の手伝い」「日常会話の相手」「近所への買い物の手伝い」「気軽に集まれる居場所づくり」などが高いポイントとして挙げられております。

41ページをご覧ください。

41ページは20年後の暮らしについて質問をしております。こちらは、20年後にはあなたはどのような暮らしをしているかという質問をしております。こちら今回初めて入れた項目でございます。自由記述方式でございますので、非常にたくさんの回答をいただきました。全部読んでいますと時間がかかりますので、例えば、「健康ならボランティアをしているかも」といったご意見や「お世話になった鳥羽のまちで何かお役に立つことをしているかも」、ほかにも「健康で趣味に生きがいを持ち、生き生きと暮らしている」「鳥羽で出会った人たちと支え合いながら豊かに暮らしている」「災害等も含め様々な条件と共生し、海とともに細々とでも頑張り漁業を続けている」といったご意見から、「免許返納で歩いて病院、買い物ができる場所に行きたい」といったご意見や「通院、買い物の不便さを感じていると思う」といった高齢になったときの具体的な生活を心配する回答も多く見られました。

非常にとばしましたけれども、資料1についてはご説明を以上とさせていただきます。

続きまして、資料の2のご説明をしたいと思います。二つ目の資料をご覧ください。二つ目の資料は「第六次鳥羽市総合計画策定のためのみんなの想いを聴くインタビュー」集計結果となっております。二つ目の資料をご覧ください。

こちらは、市民の方へのアンケート等では把握をできない事業者が抱える課題等について聞き取りを行い、その結果について総合計画の参考にするを目的としております。市民の方というよりは事業所のほうへ出向きましてインタビューを行っております。

2の対象者。対象者は12事業者を予定しておりますけれども、現在7事業者へのヒアリングが終了しております。業種は清掃業、建設業、飲食業、卸売業、燃料事業、宿泊業、漁業となっております。ヒアリングの実施期間は、令和2年1月から始めまして2月までやっております、各事業所1時間のヒアリングを行っております。

調査内容は五つございまして、一つ目が雇用形態別の従業員者数、女性の雇用状況、高齢者（65歳以上）の雇用状況。二つ目が現在の採用状況と課題、将来の採用見通し。三つ目が事業を承継していくのかというご質問。四つ目が事業所で抱えている課題やその解決方法として考えられること。五つ目が鳥羽市のまちづくりに対する意見、提案等でございます。

2ページをご覧ください。

2ページから3ページの一番上の円グラフまでは雇用形態等をお聞きしております。1人から5人までの小規模の事業所から、正規職員数5人以上の中規模の事業者まで、また2ページ目の一番下の段、従業員の65歳以上の占める割合をお聞きしておりますけれども、全ての事業所で65歳以上の方を雇用しているということでした。

3ページ、上から二つ目の円グラフをご覧ください。現在の採用状況と課題、将来の採用見通しを聞いております。二つ目のグラフでは、職員の採用に課題があるかという質問では、「ある」と回答したのが5事業所、「ない」と回答したのは2事業所となっております。

上から三つ目の円グラフをご覧ください。課題があると回答した事業所の課題の分類としましては、「人手不足」2事業所、「求人の方法に苦慮」求人を出してもなかなか応募が来ないといったことが挙げられるが2事業所、「職員の質」3事業所、「職員の高齢化」2事業所などが挙げられます。

一番下の円グラフは、職員の採用の見通しは「よい」と答えた事業所はございません。「悪い」または「不明」という回答でございました。

4ページをご覧ください。

事業承継の方向性をお聞きしております。事業承継については全ての事業所が「希望する」と回答しております。その下は事業承継の主な課題や意見でございます。「子息の承継になるが強制ではなく、子息の意思を大事にしたい」「景気の波があるため、承継する時期によって見極めたい」「子息が事業を承継する準備が必要」といった人材育成が重要といった意見がございました。

四つ目の事業所で抱えている課題やその解決方法として考えられることとして、「外国人の雇用が必要」であるとか「事業の承継のための業務の多角化や他分野への参入が必要である」「海環境保全が必要」「商品開発の方法や開発コストの削減など、他との連携によるノウハウが必要」「従業員の高齢化による技術の承継が困難」といったことが挙げられました。

また、最後の5、鳥羽市のまちづくりに関する意見・提案としては、「鳥羽市、商工会議所、観光協会等各種団体が連携して鳥羽を一つにしてほしい」「関係人口の増加」「空き家の活用」「ドラスティックな行政の

改革、抜本的な行政の改革」「様々な分野で連携を進め、経済を活性化させるべき」といったご意見をいただきました。

二つ目は以上でございます。

三つ目の資料をご覧ください。三つ目の資料は、市民会議を開催いたしましたので、その結果についてまとめてございます。

三つ目の資料の1ページをご覧ください。

資料の一つ目でご説明いたしました市民意識調査アンケートをお送りした中で、市民会議にご参加いただける方を募りました。返信された425人の中から57人の方から参加意向がございました。

開催日時は、令和元年11月24日、日曜日13時から開催をし、最終的に21名の市民の方にご参加をいただきました。検討内容はワークショップ形式により、鳥羽の強み、弱みの洗い出し、鳥羽の強みを伸ばし、弱みを改善するためにできることについて、意見出しを行っていただきました。また、各グループには、企画財政課の職員がそれぞれ1名と、第6次鳥羽市総合計画の策定を委託しております富士通総研からもそれぞれ1名が加わって行いました。

タイムスケジュールとして、まず、企画財政課のほうから人口減少や鳥羽市の産業についてのご説明を行い、まちづくりに関するお話をさせていただきました。そして、グループごとに自己紹介、鳥羽市の強み、弱み、鳥羽市の強みを伸ばし弱みを改善するために自分たちでできることについて、ポストイットに意見を書き、話し合いをするという形で進めていきました。最後には話し合った内容を発表し、検討結果を共有いたしました。

検討結果として各グループで出た意見をまとめております。四つのグループで共通して出た意見としては、強みとしては、海などの豊かな自然環境と豊富な海の幸、人が親切、温かいといった意見が挙げられました。弱みとしては、人口減少に伴う空き家、交通の利便性、働く場などの課題が取り上げられました。

2ページ目以降は、四つのグループで出た意見をグループごとにまとめました。1グループ目は2ページ、3ページに記入をさせていただいております。強み、弱み、それから強みを伸ばし、弱みを改善するというところで囲ってございます。

3ページの真ん中から少し下のほうにまとめを書かせていただいておりますので、そちらをご覧ください。3ページの真ん中から下のところに書いております。グループ1のまとめとしては、弱みとして避難訓練やボランティア活動の参加が少ないなど、市民の問題意識が薄いのではといった意見が挙げられました。また、その反面、地域課題を解決するため自らサロンを立ち上げ、地域の連携づくりをしている方や、住民参加を促す努力をできることから始めているといった住民主体の取組を意識している方の意見がありました。

4ページ、5ページはグループ2でございます。5ページにグループ2のまとめをさせていただいております。

5ページをご覧ください。交通が不便であるという共通の意見はございますけれども、ほかの都市へのアクセスがよい、他県へ電車1本で行ける、市営の定期船がある、バス路線の停留所が充実しているといった交通アクセスを強みとする意見が挙げられました。また、強みである海を生かした遊べるメニューづくりや、漁師や海女体験型の観光メニューづくりが必要という意見が挙げられました。

6ページ、7ページをご覧ください。6ページ、7ページは3グループの意見でございます。

7ページにまとめをしております。こちらのグループについても交通が不便であるという共通の意見はあるものの、交通アクセスがよいといった意見がグループ2同様にございました。また、若い男性に出会いの場がない、若い女性が都市へ出ていくといった意見。マイボトルやエコバッグ等の利用促進といった環境問題への取組が挙げられました。

8ページ、9ページは4グループの意見でございます。

9ページに4グループのまとめをしております。まち全体の規模はちょうどよい、公共施設等を中央へ集約したらどうかといった意見が挙げられました。また、高齢化に伴い、地元の人材、おじいちゃん、おばあちゃんが活躍する場をつくるといった意見、子供の育成支援に対する意見が見られました。

三つめの市民会議でのご説明は以上でございます。

次に、四つ目の資料をご説明したいと思います。

四つ目の資料をご覧ください。

四つ目は市民インタビューでございます。今年の成人式と市主催の講演会に出向きまして、参加している方に四つの質問についてインタビュー、アンケートをしておりますので、その結果でございます。一つ目の市民意識調査アンケートでは、比較的年齢の高い方からご回答をいただいておりますが、この四つ目は若い方のご意見をいただくという意味を込めて、今年の成人式に出向いてまいりました。

1ページ、概要をご覧ください。目的は、総合計画の参考にすることでございます。回答者数は、鳥羽市成人式で90名、健康福祉課主催の講演会セプトークにて34名、合わせて124名の方からご回答をいただいております。回答者の年代は、10代及び20代が92名、成人式90名です。セプトークは2名です。以下、このようになっております。

質問項目は、四つでございます。一つ目の質問が「あなたにとって、鳥羽と言えれば何ですか」、鳥羽と言えれば何々ということをお答えいただきました。二つ目は「鳥羽での暮らしやすさをほかの人に説明するとしたら何と言いますか」、三つ目が「将来、鳥羽でこんなことが起こったら、プラスされたいと思うことは何ですか」、四つ目が「目を閉じて、20年経過した鳥羽があなたの望むすばらしい状態になったと想像してみてください。そこには何が見えて、何が聞こえますか」という質問をしてみました。全て自由に記述をいただく方式となっておりますので、複数の回答をいただいたものに関しては、按分をさせていただいております。

2ページをご覧ください。

2ページ目は質問一つ目、あなたにとって鳥羽と言えれば何ですかという質問でございます。「海」と答えた方が124名中41.5人でございます。次いで「海産物」「地元、故郷」「水族館」「真珠」といった結果でございます。この回答の中で海はもちろんですが、海に関係する海産物、真珠、海女を合わせますと124名中65.5名となり、半数以上が鳥羽と言えれば海に関する項目を回答しております。

3ページをご覧ください。

質問の二つ目でございます。鳥羽での暮らしやすさをほかの人に説明するとしたら何と言いますかという質問でございます。

「親切」と回答した方が24名、「自然豊か」18名、「暮らしやすい」16.33名、「田舎」9.83名といった形になっており、成人式での回答だけに注目してみますと「親切」「暮らしやすい」

「自然豊か」という順位になっております。

4ページをご覧ください。三つ目の質問でございます。将来、鳥羽でこんなことが起こったら、プラスされたいと思うことは何ですかという質問でございます。

一番多かった回答が「ショッピングモール」でございました。これは、成人式で回答いただいた若者だけが回答をしております。ほかにも成人式の若者のみの回答として「行楽施設」「観光地化するといいい」「ハローの拡大」というのが挙げられており、若者にとってはにぎやかさ、買い物をするところがプラスされたいなという希望が多いことがわかります。また、これらの回答は、50代、60代が多いセブントークではなかった内容になります。

5ページをご覧ください。

四つ目の質問です。目を閉じて20年経過した鳥羽があなたの望むすばらしい状態になったと想像をしてみてください。そこには何が見えて、何が聞こえますかという質問です。自由記述方式ですので、その他の意見が多いというふうになっておりますが、「海」と回答した方が14.5名、「にぎやかな状態」12名、「暮らしやすい町」9名。「今のままでよい」と回答した方が5名、これについては全て成人式での若者の回答でございます。

その他のご意見として、「ずっと鳥羽にいて、すてきな人と子供と暮らしたい」「AI、技術が発展し、ロボットなどが人と共存しているいい社会」「海が見えて人の笑い声が聞こえる」「小さいながらも身の丈に合った地域づくりを皆が参加し行っている。そして、それぞれが生きがいを感じ幸せに暮らしている」、そのほか「笑顔」とか「笑い声」というワードが幾つか出てきています。

以上でございます。少々、説明が長くなりましたが、四つの方法で市民の方々からのご意見を頂戴いたしました。この四つの資料を基に、議員の皆様からもご意見とかご感想をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○木下順一議長 説明は終わりました。

この件につきまして、ご質問やご意見はございませんか。

南川議員。

○南川則之議員 最初の市民意識調査のところでお聞きます。

調査の方法として、2,000人を抽出して回答が423あって、回収率21.15%という中身の各項目についてしていただいたんですけども、鳥羽市の18歳以上の市民というのは、当然その当時1万6,000人とかおられる中で、本当は皆さんの意見を、全ての意見を勘案してやるべき意識調査なのかなと思いますけれども。あまりにもその2,000人という、2,000人以上を対象にしてやらないかんという調査かもわかりませんが、こういった大切な第6次鳥羽市総合計画に係る調査ですので、もっと幅広く出して調査をしたほうがよかったなと思うのが一点。

それと、もう一点、前回の比較を先ほど副参事がされたんですけども、その分母が少ない中で前回との何%比較で何%よくなったとか、そういったことが果たして言ってもいいのかどうかとか、そういったことも含めて、慎重に議論しながら次の第6次鳥羽市総合計画というのを練っていかないかんと思いますけれども、その辺は担当課としてどう考えているか、お聞きます。

○木下順一議長 高浪副参事。

○高浪副参事 今、言っていただきましたご意見のとおり、たくさんの方からご意見をいただきたいと思っておりますので、今回市民意識調査だけでは足りないと思ひまして、事業所を回ったりとかインタビューに回ったりとか努力はしておりますので、少しでも多くのご意見を拾いたいと思っております。

あとは、前回との比較でございますね。前回との比較でございますけれども、これまで同じようなやり方で市民意識調査、例年やっておりますので、前回との比較をすることは妥当かなというふうには考えておりますけれども、より多くのご意見が必要だということは認識をしております。

以上でございます。

○木下順一議長 南川議員。

○南川則之議員 副参事言われましたけれども、さらに今言った423名の意見だけを抽出したのではなくて、各事業所のいろんな意見とか、ほかのこともあるんですけども、この市民意識調査というところを含めてさらに補完できるのであれば、それらも含めて総合的に判断して、総合計画というのを築き上げてほしいなと思ひますんで、またよろしくお願ひします。

以上です。

○木下順一議長 他にございませぬか。

山本議員。

○山本哲也議員 この事業所のヒアリングのところ、今回12の事業者をというところで、直接お伺ひして1時間ほどのヒアリングをとっていただいているんですけども。サンプル数、先ほども指摘がありましたけれども、多分その2,000とかという部分というのは統計学上問題ない数字とかというふうになってきて、あとはもう回収の程度のとこだと思うんですけども。これ、そもそものサンプルが12というところで設定しておるんですけども、仮に商工会議所の会報とかに折り込んでインタビューを書いてもらうとかという方法もいろいろあったのかなと。それを集めてきて、そこから改めてヒアリングでお伺ひしてもより深い話が聞こえたんじゃないかなと思うんですけども、あえてこの手法を取ったとかというところに何か根拠はあるんですか。

○木下順一議長 高浪副参事。

○高浪副参事 改善点はあるかと思ひますけれども、やはり直接お話しをして伺うのがよろしいかと思ひまして、私のほうから行きたいということで担当者へ行っております。まだ途中ではございますけれども、皆さん、1時間本当にたくさんのご意見を教えていただきますので、私どもも勉強になっております。また、よりたくさんのご意見をいただくという意味では、QRコードを貼って、アンケートの用紙に、スマートフォンからでも回答できるような方法があるということを知りましたので、次回からといいますか、今後はそういったことも検討して、さらに回答率を上げていくような努力はしたいと思ひます。

以上でございます。

○木下順一議長 山本議員。

○山本哲也議員 本当、伺えば紙に書くのと違って生の声を聞いていただくということで、紙で取るアンケートよりも濃い内容は取れるかと思うんですけども、それだとなかなかサンプル数を増やすというところがしに

くいかなというふうには思うので、聞くところとサンプルとして欲しい数字というところを分けて、取り組みばもっと有効的に使えるデータもそろえよう、そういったところの工夫もね。気概は僕はすばらしいと思いますんで、そこで生かしながさらなる工夫を入れていただきたいなというふうに思います。

以上です。

○木下順一議長 濱口正久議員。

○濱口正久議員 市民意識調査のところで、2,000人のところから回答があったのが四百五十何人でしたね。そこから、先ほどお伺いしたのは、市民会議のところで57人の申し込みがあって、実際には21人しか参加できなかった。これは時間帯とかによるものなんでしょうか。どうなんですか。

○木下順一議長 高浪副参事。

○高浪副参事 紙でアンケートをしまして、そこに参加意向を書きいただきました。お名前、連絡先。それで、個々に電話をしたりとか当たりましたが、連絡がつかなかった方もいらっしゃいますし、中には、少し名前を書かなきゃいけないのかなと思って書かれた方もいらっしゃるようでございました。あと、日曜日の昼間が一番参加がしやすいだろうということで、日曜日に設定をさせていただきましたので、もしかしたらそこで都合が悪かった方もいらっしゃると思います。結果的にはこの人数になりました。

○木下順一議長 濱口正久議員。

○濱口正久議員 せっかくこうやって参加していただいて、意見もいろいろ出やすいような会議もしていただいたので、これもう1回で終わりでしょか。まだ何回か時間を変えてとかあるんでしょうか。

○木下順一議長 高浪副参事。

○高浪副参事 今回はこの1回でございます。

○木下順一議長 濱口正久議員。

○濱口正久議員 そうすると、全体の中から1%ぐらいの市民会議で参加していただいた意見になりますので、限られた中になってしまいますけれども、意識の高い方が集まっていたと思いますので、しっかりとその辺のところは酌んでいただければなというふうに思います。

○木下順一議長 よろしいですか。

○濱口正久議員 はい。

○木下順一議長 他にございませんか。

戸上議員。

○戸上 健議員 僕の印象は、アウトリーチをなさって、そして、いろんな多様性といいますか、多様なところの市民の意識をつかもうと、そういう努力をなさったということは、これまでにないんじゃないかというふうに思います。初めての項目というのも幾つか教えてもらいました。

この市民意識調査で20年後のあなたはどのように暮らしていると思いますかと、想像するご自身の20年後の暮らしについてお答えくださいというのを、これ423人の分母で198人が文章にして答えております。これは僕は意外でした。こんなにもたくさん答えたんだなと思いました。

「わからない」というのが十五、六人いるんですけども、文章にして希望を書いている人もおれば、もうお先真っ暗という人もいらっしゃいます。これも非常に僕としては興味があります。「このままでは20年後、

鳥羽市は最悪でしょう」という人もおれば、「恐らく地元から出て、他の所で暮らしているでしょう。人口減少による暮らしにくさによって」とか。こんなにも展望がないのかと思いきらされて、この議会の役割という重責といたしますか、それを非常に僕も自覚をさせられました。

実際にやったあなた方が、このアンケート結果で想定外だと、意外だったという結果というのは何があるんでしょうか。何かあるんでしょうか。想定範囲内でしたでしょうか。

○木下順一議長 高浪副参事。

○高浪副参事 私も戸上議員と同じで、こんなにたくさんの方が自由記述方式でご意見をいただけるとは思ってはおりませんでしたので、非常にたくさんのご意見をいただきまして、マイナスのイメージとかプラスのイメージで書かれた方も両方いらっしゃいますので、そのご意見が6次総合計画をつくる糧になるなというふうに感じはしました。

○木下順一議長 よろしいですか。

○戸上 健議員 貴重なデータだというふうに僕は思います。

○木下順一議長 他にございませんか。

河村議員。

○河村 孝議員 短めに。ぱっとざっと走りて意見を拝見させていただきましたけれども、ますます市民ニーズの多様化というのが一つの特徴であるのかなというふうに思いました。戸上議員からも紹介あったように、プラスの意見もあればマイナスの意見もあって。それが相反するまた意見もあって。そこを、じゃ、どうやって議会として吸い上げていくのか、行政として吸い上げていくのかということころは、今後の課題なのかなというふうに思います。人口が減っていく中で、まちの規模は変わらないで、ますます市民ニーズの多様化は進むと。それを拾い上げてどこを目指していくのかという、その一つのプロセスのつくり方が非常に難しくなっているなというのを感じましたね。

6次総をつくるときに、何となくこれらを捉えて、これ全部に応えようと思うとぼやとしたものに僕はなると思うんです。そうではなくて、こういうものを目指したいんやというところの思いが先に立った6次総になってほしいなど。この意見は意見で参考にさしてもらうんやけども、そういった方向を目指せたらなというふうに私は感じました。

以上です。

○木下順一議長 浜口一利議員。

○浜口一利議員 この意識調査というところで、私もざっとこう見たところなんですけれども、この地域のいつでもどんな調査をしたときでも、地域には愛着は持っているというのは当然多いわけで、定住意向も強いという、そういうデータが出ているわけなんですけれども、中身を見たら年寄りが多いということで、若い人がやっぱり少ない。やはりその原因は就職とか働く場所がない。そんな要因があるということころもあるし、老後の暮らしに不安ということで、やはりそれは医療とか買い物場所というのは、このあたりの課題というのは何回でも出てくることなんで、今回でもまたこれが出たかなという印象が特にあったわけなんですけれども。

そのあたり河村議員が言われたように、どこか総体的ではなくして集中的にこの部分を改善していくというような計画であってもいいのかなと、私も思いますし、この市民会議のことも出ているわけなんですけれども、

やはり議会としてもこれを一つ一つ考えながら、どこかでちょっと取り組んでみたいなというようなところもあったわけなんですけれども、それも議会の仕事かなと。相当、データを見て感じたところなんで、まだ詳しく私もしっかり見ていないところで、これくらいの意見しかちょっと言えることございません。

○木下順一議長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○木下順一議長 議員のほうからもいい意見も出ていますので、ぜひ参考にさせていただいて、よろしくお願います。

ないようですので、この件は終了いたします。

続きまして、②第2期鳥羽市まち・ひと・しごと創生総合戦略についてであります。

それでは、担当職員の説明を求めます。

高浪副参事。

○高浪副参事 長くなって申し訳ありません。二つ目を説明をさせていただきたいと思います。

資料は五つ目と六つ目になります。ご覧ください。

地方創生を推進するための第2期のまち・ひと・しごと創生総合戦略の案でございます。資料、2種類です。資料5と資料6をご覧ください。

まず、資料5でございます。

第2期鳥羽市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)1ページをご覧ください。

1ページ、第1章、基本的な考え方。1、策定の趣旨でございます。策定の趣旨の下から4行目から、「国においては第1期で根付いた地方創生の意識や取組を令和2年度以降にも継続し第2期「総合戦略」を策定することとしており、本市においても地方創生のより一層の充実・強化に取り組むため、「第2期鳥羽市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定いたします」としております。なお、ここには掲載をしておりますが、この総合戦略の中に施策の位置づけがございませんと地方創生交付金を活用できませんので、その意味でもこの策定、計画の策定は重要であるということになります。

二つ目、基本方針でございます。国が策定したまち・ひと・しごと創生総合戦略の基本的な考え方や政策5原則、新たな視点等を踏まえ、鳥羽市における人口減少と地域経済縮小の克服等を目指して各施策を展開してまいります。下の段の四角囲みが国の基本的な考え方になります。(1)で人口減少と地域経済縮小の克服、(2)まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立でございます。

2ページをご覧ください。

国の政策5原則になります。一つ目、自立性、二つ目、将来性、三つ目、地域性、四つ目、直接性、五つが結果重視となっております。

次が国の四つの基本目標になります。一つ目は、地方における安定した雇用を創出する。二つ目が地方への新しいひとの流れをつくる。三つ目、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる。四つ目、時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する。

次が国の第2期における新たな視点になります。地方へのひと・資金の流れを強化する。二つ目が新しい時代の流れを力にする。三つ目、人材を育て生かす。四つ目、民間と協働する。五つ目が誰もが活躍できる地域

社会をつくる。六つ目が地域経営の視点で取り組むとなっております。

次の3ページをご覧ください。

計画期間は、令和2年度から令和6年度までの5か年といたします。

4の推進体制です。推進体制は下の段の図になります。真ん中に鳥羽市と書いてございますが、鳥羽市ではこの総合戦略を策定するに当たり、関係課で構成する地方創生事業検討部会での内容の検討を行い、右側の総合計画審議会にてご審議をいただきました。そして、その意見を反映させ、今回の総合戦略（案）とさせていただきます。また、総合戦略で掲げましたK P Iについては、各課で評価を行い、総合計画審議会での評価の検証を行っていただき、必要に応じて取組内容の見直しや改訂を行うP D C Aサイクルを回していくことしております。

続きまして、4ページをご覧ください。

4ページは第2章、総合戦略の施策体系になります。こういった体系になっております。

まち・ひと・しごと創生法第10条に規定する基本目標、基本的方向、実施するために必要な事項として施策案を記載をしました。この内容につきましては先ほど説明させていただいた国の基本的な考え方等に基づきまして、鳥羽市としての基本目標を五つ定め、そこにひもづく基本的方向、そして目標を実現するための各施策で構成をしております。

一つ目、黄色い部分が働く場の創出・人材育成でございます。多様な働き方を認め合い、若者が地元で働き、女性や高齢者、障がい者など、誰もが役割を持ち、地域産業の担い手として活躍している。二つ目が新しいひとの流れ・ひとの交流。個性輝く鳥羽の魅力が伝わり、国内外から人が訪れている。三つ目、誰もが活躍できるまち。ライフステージに応じた希望がかなえられ、誰もが居場所や役割を持っている。四つ目が地域経営の視点に立ち、時代に合ったまちづくり、安心した暮らしの確保。鳥羽の風土に応じ、安心な暮らしが守られている。五つ目が連携施策等。地域の実情に合わせた施策が取り組まれている。

5ページ目以降は、五つの基本目標ごとに目標数値、K P Iを設定しまして、具体的な取組内容を掲げております。具体的な取組内容を全てご説明いたしますと非常に時間もかかりますので、資料6で各基本目標における数値目標と基本的方向、K P Iについてご説明をさせていただきたいと思っております。

資料6をご覧ください。まち・ひと・しごと創生総合戦略のK P I一覧になっております。

1ページ目です。1ページ目、基本目標1、働く場の創出・人材育成では、全体の数値目標を市民が就労している割合としまして、平成30年度基準値は65%に対し、令和6年度では70%といたしました。

また、基本目標1を実現するための基本的方向についても、総合戦略の最終年の令和6年度におけるK P Iを設定をしております。1-1、魅力ある働く場の創出では、K P Iを無料職業紹介所に求職登録された方のうち就職された人数、新規就農・就漁者数、農水産物直売所に出品される加工品数を設定しました。三つ目の農水産物直売所に出品される加工品数については、基準値が301品となっておりますけれども、目標値300品でございますが、これは基準を下げないという設定になっております。

1-2、異業種連携による産業振興では、漁業と観光の連携などによる産業振興を主に具体的な取組としております。K P Iとしては漁業収入、宿泊者数、推定消費額を挙げております。2ページ目にいきますと、もう一つK P Iがございます。藻類種苗生産業務の担い手人数を掲げました。

1-3、Society5.0、新技術の活用では、具体的な取組内容としては大学、企業との連携やICT、AIを活用した産業振興を挙げております。KPIとしては、海洋アライアンス構築事業数として新しく水産研究所が動き出します。新しい水産研究所を中心とした水産振興について、大学や研究機関、民間企業との連携により進める事業数を目標値としております。

1-4、新たなビジネスモデルの構築。テレワークという働き方の認知度、現在調査した数値はございませんけれども、市民アンケートにより調査をする予定でございます。

1-5、企業との交流・連携。地域課題の解決に向け企業などの連携により企業版ふるさと納税や地域おこし企業人の活用を進め、行政の経営資源であるヒト、モノ、カネの確保に努めます。KPIとしては民間企業連携事業数を掲げました。

1-6は挑戦人口の創出です。地域課題解決に向けてチャレンジする企業や個人のことを、挑戦人口と名づけました。KPIとして、教育研究機関連携事業数、起業家セミナー参加者数、事業承継補助金交付件数を掲げました。

3ページです。基本目標2、新しいひとの流れ・ひとの交流。数値目標は市外への転出超過数の改善。平成30年度実績は192人でございますが、令和6年度目標値は92人といたしました。もう一つの数値目標、外国人観光客の入込客数、基準値が11万6,457人、目標値は19万2,000人でございます。

基本的方向、2-1、企業との連携。これは先ほども基本目標1でも掲載しておりますので、省略いたします。

2-2、移住・定住の促進。KPIとして市外への転出超過数の改善、安楽島団地、安楽島第二団地空き家戸数、空き家バンク登録件数を掲げました。

2-3、観光魅力の向上。KPIとしては外国人観光客の入込数、宿泊者数、4ページ目にいきますと、推定消費額を掲げております。

2-4、関係人口の創出。KPIとして鳥羽ファンクラブ会員数、目標値3,000人と設定をいたしました。予算委員会では、鳥羽ファンクラブの会員数を1年間で50人を目指すとさせていただきますが、少ないのではないかとのご意見をいただきました。また、総合計画の審議会においても少ないのではないかとのご意見をいただいております。関係人口にも鳥羽市との関わりが浅い部分から深い部分までございます。まずは、間口の浅い部分も含め、5年間の目標値を3,000人と設定をさせていただきます。ほかに、宿泊者数、推定消費額を挙げております。

5ページをご覧ください。基本目標3、誰もが活躍できるまち。一つ目の数値目標は、市民が就労している割合。基本目標1の目標と同じでございます。

二つ目は、市民団体及びNPO団体の登録数で、基準値82団体、目標値82団体と設定いたしました。人口減少が進む中で、活動している団体については現状を維持するという目標にいたしました。

基本的方向、3-1、結婚・出産・子育て支援。KPIとしては、子育て支援センター年間来場者数、総合子ども相談「ほっぷ」対応件数、いずれも基準値より減少した目標値となっておりますけれども、人口減少による子供の数の減少が見込まれることによるものです。

3-2、教育・保育環境の充実。KPIとして鳥羽中央公園施設利用者数、保育所入所児童数。三つ目はI

CT教育を推進するため、児童生徒1人1台端末738台の整備割合を掲げ、目標値を100%といたしました。

3-3、体験・経験型教育の推進。とばっこ検定受検児童の合格率。目標値は90%と書いてございますが、90%超えを目標としたいと思います。平成30年度は合格率が100%でしたが、目標としては毎年90%を超える合格率を目指すというふうにしております。

6ページをご覧ください。6ページ一番上、生涯学習講座受講後アンケートでの充実実感割合。こちらも目標値90%超えをしたいと思います。

3-4、SDGs誰ひとり取り残さないまちの実現。SDGsを意識した行政運営により、誰ひとり取り残さないまちの実現を目指します。具体的な取組として、とばびと活躍プロジェクト、新しい水産研究所を拠点とした水産振興などを挙げております。KPIとしては市民が就労している割合、藻類を中心とした種苗販売額、無料職業紹介所に求職登録された方のうち就職された人数を掲げました。

7ページをご覧ください。基本目標4、地域経営の視点に立ち、時代に合ったまちづくり、安心した暮らしの確保。数値目標は鳥羽市が「住みやすい」「まあ住みやすい」と思う市民の割合。基準値は66.1%、目標値を81.1%と設定をいたしました。

基本的方向として、4-1、防災対策の充実。自主防災組織等の活動回数。

4-2、スポーツ・健康まちづくり推進。中央公園施設利用者数。65歳以上の高齢者に占める要介護・要支援認定者の割合、基準値20.1%、目標値を18%と設定をいたしました。

4-3、コミュニティの形成・強化・充実。KPIは地域福祉推進員数、かもめバス乗車人数、市営定期航路乗船人数、市民団体及びNPO団体登録数。8ページです、地域おこし協力隊退任後の定住数を掲げさせていただきます。

4-4、地域資源の高付加価値化、新しい価値の創生として、地域資源のシェアリングリノベーションを推進し、地域価値の向上を目指す取組です。KPIとしては管理不全空家通報件数、各公共施設の管理計画の策定率を掲げております。

4-5、環境に配慮した持続可能なまちづくり推進。KPIとして鳥羽市リサイクルパーク利用者数。

4-6、Society5.0新技術の活用。これは基本目標1と同じでございますので、省略をいたします。

9ページでございます。基本目標5、連携施策等。

共通目的を有する自治体等と連携をしたり、また地域課題を解決するために国家戦略特区の推進や、強靱でしなやかなまちづくりを行うための国土強靱化計画などを推進します。数値目標は、伊勢志摩定住自立圏取組項目数、基準値が31項目、目標値は36項目と設定をいたしました。

基本的方向5-1、国家戦略特区の推進。人口減少、高齢化により今後さらに市民の移動手段であるとか公共交通に関する課題が出てまいります。交通の課題を含め、国家戦略特区制度の活用を模索していきたいと考えております。KPIとして、かもめバス乗車人数、市営定期航路乗船人数。

5-2は、国土強靱化計画の策定・推進です。現在、第6次鳥羽市総合計画に含める形で、国土強靱化の地域計画を策定中でございます。KPIとしては鳥羽市国土強靱化地域計画の施策の進捗割合を掲げました。

非常に長くなりましたが、以上で説明を終わります。

○木下順一議長 説明は終わりました。

この件につきまして、ご質疑はございませんか。

南川議員。

○南川則之議員 二点、お聞きします。

昨年12月12日に、30年度の総合戦略数値目標、KPI一覧といただいて、説明をいただきました。そのときにさっき言った実績値、30年度に対して今年度の目標値ということで説明をいただいたんですけども、今回、ほとんど基準値は30年度という基準を基にして令和6年の目標値を出しておるんですけども、今年まだ結果が出ていないものですからわかりませんが、実際、この第2期鳥羽市まち・ひと・しごと創生総合戦略、この基準値をこの30年度に置くのか、31年度令和1年と置き換えるのか、それを一点と。

それと、この昨年度説明いただいたときに、36のKPIを以前は設定して、ほとんどが目標値5割以下の22やって61.1%と。かなり目標が厳しかったんかどうかわかりませんが、到達していないところがあって、今回もいろいろ令和6年度までの目標というのは、先ほど副参事説明いただいたように、かなり目標の高いところを設定されておったりとか、なかなか厳しいところもあるのかなと思いますけれども。まあ目標やからしっかりしたものを立てたんかわかりませんが、そういったところ、どういうふうにされたかというのを、二点お聞きします。

○木下順一議長 高浪副参事。

○高浪副参事 基準は平成30年度で置きたいと思います。直近のデータが出るところでございます。

それで、目標ですね。12月の全員協議会で結果、今、第1次の結果を報告させていただきました、非常にA、B、C、Dの評価でDが61.1%という結果でございましたけれども、今回少しKPIに関しましても、各課と相談をしましてより具体的な数値が出るようなものに変更しているものが多くあります。やはり頑張らなくてはならないというのがありますけれども、またこれ5年間継続して続けますけれども、いろんな評価をしながら、それから審議会でのご意見などもいただきながら、見直しをかけていく機会が毎年ございますので、そこも含めて目標に向かって取り組んでいきたいと思っております。

以上です。

○木下順一議長 南川議員。

○南川則之議員 説明いただいたように、目標の6年度に向かって、またいろいろ検討しながらやってほしいなと思います。

以上です。

○木下順一議長 他にございませんか。

濱口正久議員。

○濱口正久議員 関連で同じところなんですけれども、12月ではやっぱりKPIの設定は非常に難しいという話がありました。今、お答えいただきましたけれども、今回、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中でやっぱり重要施策と位置づけられるところが漁業と観光というところが、また出てきています。それについては間違いはないんですね、これで行くということで。

○木下順一議長 高浪副参事。

○高浪副参事 ええ、間違いはございません。

○木下順一議長 濱口正久議員。

○濱口正久議員 実際、このK P Iを設定するのはいいんですけども、具体的に総合戦略は計画を立てて終わりじゃなくて、実際に実行をしないと数値が61%がD評価とかというような現在の厳しい状況になってきますので、これはやっぱり設定した以上はそれに向かってしっかりと取り組んでいくように願いたいというふうに思います。

○木下順一議長 他にございませんか。

瀬崎議員。

○瀬崎伸一議員 すみません。何点かお伺いをいたします。

まず、いわゆる4-3というふうに分類されているところだと思います。コミュニティ形成・強化・充実というところの中の、いわゆる地域公共交通というところでK P Iについては基準値から下がっているような目標値のような表記にされていると思うんです。もちろん人口が減るといった部分もあるのかなとは思いますが、なぜなのかというところを教えてください。

○木下順一議長 高浪副参事。

○高浪副参事 瀬崎議員言われたとおり、人口減少によるもので下がっているところはございます。住民が十分に、市民の方が利用されているところが大きいので、住民利用が減っている、人口が減っていくことと、プラスアルファは観光客の方もやっぱりたくさん乗っていただきたい、そういう施策も含めてこの数値にさせていただきました。

○木下順一議長 瀬崎議員。

○瀬崎伸一議員 すみません。このいわゆるK P Iは、一番最後のところ5-1、いわゆる国家戦略特区の推進というところでも使われているところかなと思うんですけども、ちょうど我々、文教産業常任委員会が行政視察を行わせていただいた養父市が行っているのが、国家戦略特区の中の制度の改革でいわゆる自家用有償運送事業の許可を取っているというようなものだったと思うんです。その辺を目指しに行かれるのかなということに関しては物すごく賛成です。ぜひ推進をしていただきたいんですけども、いわゆる国家戦略特区を推進したいんだと。地域公共交通を充実させていきたいんだということの目標値として利用数が減っていくという、何かそこら辺にちょっとそごを感じるんです。

もう少し違う目標の設定の仕方というのはできないのかなというのが、素朴な疑問でして。要は国の政策原則が結果重視で、P D C Aサイクルで、結果が出ていないことに関してはお金は出しませんよというのが原則だということもよくわかるんですけども、地域公共交通の交通網が充実されたとか、そういうところに目標を置かれるべきなんじゃないのかなとは思いますが、その辺いかがでしょうか。

○木下順一議長 高浪副参事。

○高浪副参事 今回、K P Iを乗車人数、乗船人数としておりますけれども、今、おっしゃっていただきました公共交通網がちゃんと形成された、何かの数とか、そういったことも考えられると思いますので、これ5年間推進していきます、その中でまたご意見等いただいて、K P Iを変えていくとかですね、足すということもできますので、そのようなことは検討はできると思います。

○木下順一議長 瀬崎議員。

○瀬崎伸一議員 最後、もう一つだけ伺いをいたします。

地域おこし協力隊についての、これも4-3に入るのかな、そのところにあったと思うんです。退任後の定住が現状2名であるところを7名に上げたいんだというような目標値になっていたように思うんですけれども、何人ぐらい就任していただいて、そのうちの7人が残ってほしいという考え方なのか。最終的に7人、令和6年度には、令和5年度に7人地域おこし協力隊がいて、その人全員が退任後には定住になってほしいというような考え方なのか。どのような規模でこうお考えになられとるといようなことは、今ありますか。

○木下順一議長 高浪副参事。

○高浪副参事 地域おこし協力隊の方、定住まで結びつけるのは非常に難しいところではございますけれども、1年間で1人という目標で、5年間で5人増やすという、そんな意味合いでございます。

○木下順一議長 よろしいですか。

○瀬崎伸一議員 はい。

○木下順一議長 他にございませんか。

戸上議員。

○戸上 健議員 一点お聞きします。

この政策パッケージのKPIも、例えば漁業収入も1組員216万円から5年後には250万円にするという計画になっております。ちょうど令和6年度ということは、財政再建の最終年度ですわね。毎年1億円ずつ財調を積み上げていくということで、今年度の予算のような厳しいシーリングを続けていかなければならぬというふうに思うんです。その中でこの施策パッケージ、KPIを達成するためにどれだけの一般財源が要るのかと。そこをどの程度はじいていらっしゃるのでしょうか。

○木下順一議長 高浪副参事。

○高浪副参事 どの程度の一般財源が要るかということのはじいておりませんが、内容、事業、施策としては中身、重要だと思っておりますので、この目標、漁業者のための取組、一生懸命やりたいと思います。

以上です。

○木下順一議長 戸上議員。

○戸上 健議員 その意欲はよしで、応援したいというふうに思うんですけれども、種苗放流も180万円も減らずで、果たして漁業が250万円になるのかどうかというのは、僕は疑問ですけれども、しかし、この施策パッケージのKPIは国のほうも131項目あって、達成したのは12項目だけで、達成率から言うと鳥羽の30%やったっけ。僕は持っていなかったもので、36.1%か。午前中に田畑さんからもらいましたけれども。よう頑張っているほうだと、1期のほうは思います。2期目もいろいろ大変でしょうけれども頑張っしてほしいというふうに思うんです。

以上です。

○木下順一議長 他にございませんか。

浜口一利議員。

○浜口一利議員 これ一つずつ聞いていくともう時間がなくなっていく感じなんですけれども。

国の地方創生の基本方針ということで打ち出していることなんですけれども、ここで国の基本的な考え方の抜粋というところで、「東京への一極集中を是正する」という項目があるわけなんですけれども、その上の説明を見ると、「好循環の確立を目指し、諸施策を展開します」と基本方針にはあるわけなんですけれども、このあたりは東京の一極集中を地方の都市がどのような施策があんのかなと思うて。考えても思いつかないけどもさ。そのあたりというのはどんなふうな国のメニューとかというのは、情報が入っているのかなというところをお聞きしますけれども。具体的な施策というんですか。

○木下順一議長 高浪副参事。

○高浪副参事 東京一極集中を是正するのは、やはり移住・定住施策かなというふうに思います。あと東京のほう、東京というか首都圏のほうへ女性の方が特に集中して出ていかれるということでございますので、移住・定住施策に加えて、そこに特に例えば女性に注目して施策を考えるとかということは考えられますが。

○木下順一議長 浜口一利議員。

○浜口一利議員 そのような方向性はあるということもあるわけなんですけれども、何か束になってかかってもこれは是正できないかなというように諦め感のほうが強いような感じがするわけなんですけれども。何とか今一極集中というのがいろいろ問題が起きているところなんで、地方にやっぱり人が来てもらうというのは、そのような施策というのは重要かと思っておりますので、できる限り鳥羽のほうへ移住ということで力を入れてください。

○木下順一議長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○木下順一議長 ないようですので、この件は終了いたします。

執行部の皆さんはお疲れさまでございました。退室をお願いいたします。

それでは、引き続いて協議事項2、議会報告事項です。鳥羽市の離島におけるごみ及びし尿等の収集運搬に要する費用負担の軽減を求める意見書について、提出者の説明をお願いをいたします。

浜口一利議員。

○浜口一利議員 座って説明させていただきます。

鳥羽市の離島におけるごみ及びし尿等の収集運搬に要する費用負担の軽減を求める意見書案というところで、議会議員の皆様には説明をした上で、ご賛同をお願いしたいというところなんですけれども、内容については読み上げて説明させていただいてよろしいでしょうか。

(「はい、お願いします」の声あり)

○浜口一利議員 それでは、鳥羽市は、神島、答志島、菅島、坂手島の四つの有人離島(6地区)を有し、離島振興法における離島振興対策実施地域として指定を受けてきました。4島の世帯数は1,373世帯、3,164人の島民が生活しており、本市人口の17%を占めています。

この四つの離島(6地区)からは、年間でごみ約777トン、し尿約69立方メートル、浄化槽汚泥約1,064立方メートルを本土に運搬して処理しています。

ごみの本土への海上運搬は、島内で収集したごみを4離島から六つの航路で市内の海運事業者へ委託して運搬しております。また、海上運搬業務以外にも各離島の集積場管理や集積場からの運搬船へのコンテナを使っ

た積み込み等に関わる業務を地元町内会等にそれぞれ委託しています。

さらに、し尿及び浄化槽汚泥については、市内事業者が運搬船でバキューム車を離島へ搬入し、し尿汚泥を収集した後に、本土側の処理施設へ運搬しています。

このようなごみ、し尿等の海上運搬費並びにそれらに係る業務には多くの費用が掛かっています。離島は本市の宝ですが、離島のごみ等の運搬は市の大きな負担となっています。

そこで、離島からのごみ等の運搬にあたっては、離島がゆえに本土とは違った多くの経費が必要となることから、三重県におかれましても、本意見書の趣旨をご理解いただき、ご支援いただきますよう、次の事項について取り組むことを強く求めます。

記。

ごみ、し尿及び浄化槽汚泥の海上運搬費及びそれらに係る業務費用について、離島の地理的条件による諸課題を十分に考慮し、新たな法整備や特別な財政的支援措置を講じるよう国に要望すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

日にちのほうはまた、後ほどということで。

三重県知事、鈴木英敬様。

三重県鳥羽市議会。

このような意見書の提出を皆様方の賛同をいただいで出したいと思うんですけども、これについていかがでしょうか。補足説明ということで言いますと、年間のごみの処理費用が決算とかその資料を見てみると5,000万円近くかかっているわけなんで、全てのごみではないですけども、し尿は別でということで。また、フェリーでパッカー車を積んで運搬しているという状態なんですけれども、専用の栈橋も鳥羽にはないというところで、このような形が続くのかどうかという不安もありますし、それと天候に左右されるという部分がやはり大きいところなんで、やはり三重県、国のいろいろ支援策というのが欲しいというところがあります。

これを出すに当たっては、唐津の市議会と話をしながらというところで進めさせていただければというようなところも考えているわけなんですけれども、まず、とりあたってこの意見書を皆様方に説明した中でどうでしょうかということなんで、それからお願いしたいと思います。

○木下順一議長 もう少し補足させていただきますと、鳥羽市も全国離島振興のほうで監事を今、私もやらせていただいでまして、そこで佐賀県の唐津市議会議長、それから広島市の三原市の議長ということで監事をさせていただいてまして、この前唐津の議長のほうからこういう提案をいただいで、参議院会館のほうでも国交省、環境省の職員にも来ていただいで、こういう勉強会も開催もさせていただきました。

一旦これは三重県知事にご要望というか意見書は出させていただいて、また全国離島の役員会の中で、これを諮っていただいで国へもというような流れをしておりますんで、ぜひこれを採択いただいで、国へと。支援をしてくださいというようなことなんですけれども、多少今も交付税の中で、交付税のその他の中で何かいただいでいるみたいなんですけれども、もう少しこう負担を上げていただくような活動をさせていただこうかなと思って、この意見書を出させていただいております。

この件について、皆さんのご意見。

(「異議なし」の声あり)

○木下順一議長 異議なし、ありがとうございます。

ないようですので、この件は終了いたします。

(「議長、すみません。採択したら正副議長と離島の議員で知事のところへ」の声あり)

○木下順一議長 はい。もうアポ取ってもらっていますが、4月1日に県庁のほうへお邪魔する段取りさせていた
ただいています。

(「県議に行ってください」の声あり)

○木下順一議長 はい。

ないようですので、この件は終了いたします。

この件につきましては、3月31日に議員発議により上程を予定しておりますので、よろしくお願いをいた
します。

以上で本日の協議事項は全部終了いたしました。

これもちまして全員協議会を散会いたします。

(午後 5時41分 閉会)

議長はこの会議録をつくりここに署名する。

令和2年3月27日

鳥羽市議会議長 木 下 順 一